

KUMAMOTO

The Weekly Bulletin

GREEN Rotary-Club

Kumamoto green rotary club district 2720 rotary international

R.I. 会長テーマ 「世界に希望を生み出そう」 R.I. 会長 ゴードン R・マッキナリー

2023～
2024年度
テーマR.I.2720地区テーマ 「ロータリーは学舎であり、遊び場である」
「そして、ロータリーアクションは世界を変える」

R.I. 2720 地区 ガバナー 膳所和彦

熊本G.R.C.テーマ 「奉仕の輪を広げよう」

熊本グリーンRC会長 江上泰弘

世界に希望を生み出そう



■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
 ■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
 TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：江上泰弘 ■幹事：山口 翼 ■会報担当：西本周平
 ■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
 TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

第1511回

2023 - 2024 年度 第26回

令和6年3月4日

【例会】

- ・「君が代」
- ・「友と語ろう」(熊本グリーンRCの歌)

1. 閉会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

来訪者紹介 (江上 泰弘 会長)

なし

会長スピーチ (江上 泰弘 会長)

こんばんは、いよいよ3月がスタートして公立高校の卒業式も先日あったようです。我が家の庭にありますサクランボの花も2、3輪ほど膨らんできました。いよいよ、春が近づいてきたようです。しかし、3週間ほど前に植えたジャガイモがまだ、芽を出しません。

我が家の話で恐縮ですが、今年の春は、私以外みんな新しいスタートを切る予定です。長男が、転職して新しい職場に勤める予定で、二男は、現在東京に勤務しているのですが大阪の本社に戻るようで、東と西を行ったり来たりする生活をするようです。また、家内は子育て中のお母さんの相談を受ける仕事でしたが、やはり

グリーンロータリー・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。

というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

春から変わって留学生の相談を担当するようです。最後は、一人いる孫が3歳になったので、保育園を変わるようです。身内がみんな4月から新しい環境でスタートすることが我が家の最大の出来事です。

最後に、私は？と考えてみると社用車が22万キロ走っていましたので新しく乗り換えることが、春の変化かなと思います。

幹事報告 (田中 純司 会員)

＜例会変更・取り止め＞

●例会変更

[熊本西南 RC]

- ・3月14日(木)の例会は、新会員歓迎例会のため、同日18:30よりオーデンにて行います。サインメーキャップは行いません。
- ・3月28日(木)の例会は、お花見家族例会のため、3月29日(金)に北岡神社にて行います。サインメーキャップは行いません。
- ・4月11日(木)の例会は、ニュースカイホテル内4RC合同例会のため、4月9日(火)18:30より、ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにて行います。

●例会取り止め

熊本平成RC3月13日(水)の例会は、定款第7条第1節に基づき、取り止めます。サインメーキャップは行いません。

卓話予定

3/11 「PETS報告」宮部康弘 会長エレクト

3/18 外部卓話 宮部康弘会員ご紹介者の卓話

3/25 「観桜例会」18:30(於:和食「仲むら」)

★18:10～サクラマチの熊本グリーンRCの植樹した桜の前に集合して
記念写真を撮り、「仲むら」に移動

[熊本グリーンRC ホームページアドレス] <http://www.kg-rc.com/>

慶 事

(河島一夫クラブ管理運営委員(親睦担当長))

3月お誕生日お祝い

十時 義七郎 S3. 3.31
 田中 純司 S30. 3. 2
 宮部 康弘 S47. 3. 13
 西本 周平 H元. 3.24
 湯上 裕盛 H元. 3.28
 齋藤 義鷹 H11. 3.9
 十時 貴子 3.21
 栗山 節子 3. 5



お誕生日のお祝い

出席報告 (荒木 一之 会員)

	会 員 総 数	21名	出席 率
3月4日	出席免除会員数	0名	47. 62%
	計算上会員数	21名	
	出席会員数	11名	
2月5日	前回の出席会員数	10名	52. 38%
	メイクアップ数	1名	
	修正出席会員数	11名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
・ 3/2 JAPANOKEクラブ 山下 君			

スマイル

(クラブ管理運営委員長 宮部 康弘 会員)

●江上 泰弘 君

「先週、大阪に行って来ました。環状線に乗ったら全ての広告が熊本に移住しませんかと言う広告でした。将来の人口減少が心配されていますが、熊本県も頑張っているみたいです。」

●河島 一夫 君

「スマイルの宮部さんの横に座りましたのでスマイル!」

●田中 慎二 君、栗山 義則 君、宮部 康弘 君

「本日はクラブフォーラムです。1人でも多くの仲間が増えるよう、皆で知恵を集めて話し合いましょう。また、誕生日プレゼントもありがとうございます。52歳も1人前のロータリアン目指して精進致します。」

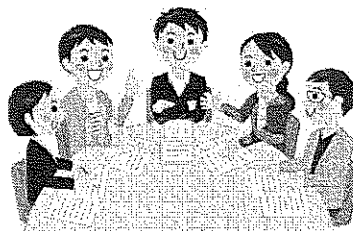
3. 例会プログラム

「会員増強クラブフォーラム」



山下佳介委員長より

現況報告



4. 閉会・点鐘

★例会終了後、「定例理事会」開催

「医療を止めない」被災地の病院を支援

投稿日: 1 月 29, 2024 投稿者: Rotary Japan

～令和 6 年能登半島地震 被災地への緊急支援活動

寄稿者: 新井 和雄(下館ロータリークラブ会員、第 2820 地区パストガバナー／緊急災害支援隊)



能登半島地震発生

元旦の所作を終え、茨城県の自宅で典雅な雅楽の調べに京の友から贈られた銘酒を傾けたころ、ゆさゆさと始まった揺れはうたた激しくなり、災いの記憶が脳裏をよぎりました。令和 6 年 1 月 1 日午後 4 時 10 分、最大震度 7 を観測した能登半島地震が発生した瞬間でした。

東日本大震災を経験した私たちは被災者の困難が直観でわかるとはいえ、日に日にあらわになる被災地の惨状を目の当たりにし、支援の手が届きにくい現実にもロータリアンとして歯がゆさを覚えました。

能登で地域医療を支える神野正博さんと連絡を取ったのは、1 月 6 日のこと。私と同期のガバナーだった神野さんは、七尾市で恵寿総合病院を経営しています。神野さん（七尾ロータリークラブ会員）ご夫妻と筆者（写真右）

能登半島の広範囲で水道、道路、空港、港湾、役所、病院をはじめ、多くの社会インフラや住宅が破壊され、治療を必要とする被災者が多数現れました。恵寿総合病院では、いつもの患者のほかに、多くの被災者、そして診療が出来なくなったクリニックからの患者も受け入れ、業務は通常の 2～3 倍になったそうです。そのような困難に直面し、医師や職員も被災してろくな食事も摂れない中、こんな時こそ「医療を止めない」を合言葉に病院を動かしているということです。

即決断して緊急支援隊を結成

早速、当地区の大久保ガバナーに連絡して恵寿総合病院のための食糧支援を申し出たところ、



即答で「すぐに実行するように」との指示をいただき、「2820 地区能登半島

地震緊急支援隊」を編成しました。



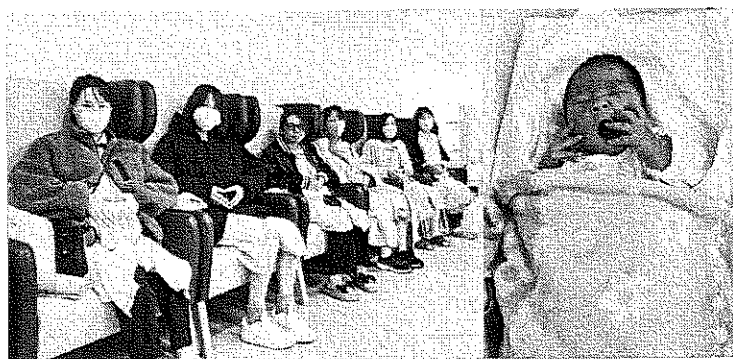
まず、地区補助金臨時費を申請し、地区内会員の皆さまに寄付をお願いしました。その後、食品製造・販売業を営む会員から食糧を調達し、水戸市から災害支援車両の高速道路通行許可をいただきました。集めた物資は、カップ麺 16,680 食、500ml ペットボトル飲料 2,400 本、パン 250 個、栄養ドリンク 144 本などの食品のほか、除菌ティッシュやペーパータオル、不織布マスク、使い捨てカイロ、ポリ袋、ブルーシートなどの必需品。こ

れらをわずか 5 日でそろえ、1 月 11 日深夜、4t トラック 3 台とワゴン車 1 台に支援物資を積んで恵寿総合病院に向かいました。

地域医療のレジリエンスを高める

病院近隣のロータリー会員も皆被災者であり、七尾ロータリークラブの事務局も被災したことから、誰も神野さんには連絡しないよう頼みました。当日も、搬入は私たちだけで行かうから、神野さんをはじめ病院職員の方々には「医療を止めない」業務に専念するようお願いしていました。

1 月 12 日午前 8 時に恵寿総合病院に到着。静かに搬入を始めましたが、神野さんに見つかってしまいました。徐々に手伝いが増えていき、あっという間に保管場所に納めることができました。病院の災害対策本部から支援物資の受領書をいただき、神野さんからは「2820 地区の皆さんに“ロータリーのマジック”を見せていただいた」と感謝の言葉をいただきました。



私たちは、数万人の被災者全員に対して平等に物資を配布することはできません。しかし、治療・透析・出産など、被災地で最も困難な状況に直面している災害弱者の方々のために、自らも被災者でありながら「医療を止めない」決意で地域医

療を支えている病院のレジリエンス（回復力）を高める支援ができたと思います。

援助活動の最中にも、ほかの病院から転院されてきた女性が出産されました。新たな命の誕生に触れ、能登の未来に胸を熱くしました。